

第5章 教育活動の推進

伝統や文化に関する教育

国際社会で活躍する人材の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である。自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けることは、グローバル化する社会の中で異なる文化や歴史、生活習慣をもつ相手に敬意を払い、協働して課題を解決することができる「持続可能な社会づくりの担い手」の育成に資するものである。

各学校における取組

～ 伝統文化の発展への貢献 ～

三次市立酒河小学校第6学年の児童は、酒河童太鼓を受け継ぎ、様々な場で童太鼓の演奏を披露している。平成30年度は、東京五輪の事前合宿のために三次市を訪れているメキシコ陸上選手団の歓迎セレモニーにおいて、童太鼓で出迎えた。また、地域にある県立三次高等学校に交流で来ているアメリカ ニューヨーク州ハービースクールの生徒に、童太鼓を披露するだけでなく、実際に教える等して交流を行った。



(三次市立酒河小学校)

～ 地域の伝統文化を受け継ぐ ～

安芸高田市立八千代中学校では、地域の「郷土芸能保存会田楽部」の支援を受け、特色ある学校づくりの一環として「田楽」に取り組んでいる。第1学年の生徒は、途絶えそうになっていた田楽の歴史について学び、保存会の方からの繰り返し指導を受け、その思いを受け継いでいる。体育祭当日には、感謝の気持ちを込め、広く地域に発信している。



(安芸高田市立八千代中学校)

～ 伝統文化の発展への貢献 ～

「筆の都」として知られる熊野台に立地する熊野高等学校では、昭和59年に県内唯一の芸術類型（書道コース）が設置されており、書道部の活動も盛んである。芸術類型書道コースの生徒は地元の筆の里工房で開催される鑑賞会に参加するなど知見を広める一方で、地域行事や作品展で書を披露し、伝統文化の発展や継承する大切さを学んでいる。また、全校において外部人材を招聘しての「実用書道」を年間3回実施し、全ての生徒が書の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深める取組を積み重ね、熊野の地に学ぶ愛着と誇りを育成している。



広島県立熊野高等学校
書道パフォーマンスの様子